

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

日本神経治療学会 標準的神経治療：慢性疼痛

日本神経治療学会治療指針作成委員会（編集責任者：辻貞俊 産業医科大学神経内科）
神経治療、第 27 巻第 4 号、2010 年

■1 漢方薬

疾患：

FM【線維筋痛症】

引用など：

村上正人. 日本東洋心身医学研究会 EBM 作業チーム調査報告, 心身症およびストレス関連疾患に対する漢方治療のエビデンス; 線維筋痛症. *日本東洋心身医学研究* 2008; 23: 100-2. [MOL](#), [MOL-Lib](#)

有効性に関する記載ないしその要約：

心療内科的治療 -とくに線維筋痛症に対して- 薬物療法の東洋医学的視点からの処方
の項に、下記の記載がある。

『漢方治療については現段階ではまだ経験論的な使用法が主体でエビデンスはほとんど
検証されていないが有効と思われる処方も多い。』

■2 疎経活血湯、牛車腎気丸、桂枝茯苓丸、加味逍遙散、温 経湯、芍薬甘草湯、抑肝散、抑肝散加陳皮半夏

疾患：

筋痛症、FM【線維筋痛症】

有効性に関する記載ないしその要約：

心療内科的治療 -とくに線維筋痛症に対して- 薬物療法の東洋医学的視点からの処方
の項に、下記の記載がある。

『FM【線維筋痛症】は女性に多いので月経周期に伴う痛みや不定愁訴の改善に漢方薬なども併用されることが多い。筋痛症、FM への効果が期待できるのは疎経活血湯、牛車腎気丸などで、女性の月経周期や冷えに伴う FM の増悪や不定愁訴の改善には桂枝茯苓丸や加味逍遙散、温経湯、芍薬甘草湯などを選択する。軽躁状態や怒り、興奮性や高揚した情緒的変動が背景にあるときは抑肝散や抑肝散加陳皮半夏などを併用して有効なことがある。単独の処方ではなく抗うつ薬や抗けいれん薬などと併用して相補的な効果を期待する。』